

二〇一七年五月二六日(参加者一〇名)

水浸きつつ幹黒々と大夏木	小袖
対岸へ広がる池面緑立つ	小袖
園涼しラムズイヤーの葉にも触れ	小袖
漣を片寄せてゆく風涼し	小袖
蛇苺大樹の影に待るごと	小袖
野の花の園の小径をふちどりぬ	なおこ
草の絮受けとめて見る掌	なおこ
並び立つ羽ペンのごと茅花揺れ	なおこ
喬木の森抱かんと雲の峰	菜々
媼らの遊山へ檣花降らす	菜々
紅ほのとほぐれそめたる花菖蒲	菜々
行厨のBGMは行々子	はく子
公園をまたぐ大橋風涼し	はく子
万緑に染まる広池風渡る	はく子

たたなはる青葉若葉の池畔かな ぽんこ

草茂る川と岸とのけじめなく ぽんこ

老鶯の美声に森を逍遥す ぽんこ

夏雲を突き上ぐるごと斜張橋 満天

菖蒲池眺めの鶯やお弁当 満天

夏空を掃くごと揺るるブラシの木 満天

花菖蒲艶めく名もて咲き競ふ わかば

四阿の風心地よき菖蒲池 わかば

起伏野の眼下に展け池涼し わかば

下闇を抜け下闇へ園広し せいじ

バス停の外大前は若き夏 たか子

吟行句会みのる選

二〇一七年五月二六日(参加者一〇名)